



編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692(住所記入不要)

☎0276-88-5511(代表)

☎0276-47-5007(企画課直通)

☎0276-89-0136

🌐 <https://www.town.orai.gunma.jp>
✉ koho@swan.town.orai.gunma.jp

おうらお知らせメール
配信を希望する人は、右のQRコード
から、ご登録をお願いします。
🌐 <http://cc9.easypocket.jp/>(PC)
📱 <http://cc9.easypocket.jp/k/>(携帯電話)



(PC・スマホ)



(携帯電話)

〈第八十四回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし

夏祭りの醍醐味でした。会場に数多く飾られた提灯に明かりがともると、櫓が浮き上がり、旗と提灯がゆらゆらと揺れ、祭りの夜空がパァッと明るくなりました。舞台の幕開けは、女子青年の手踊りで始まり、婦人会の踊り、青年の八木節踊りなどがありました。お唯子の人たちが、粋なゆかたでねじり鉢巻き、赤いたすきに白い足袋で、横笛、太鼓、鉦、つづみを持って舞台のそでに並ぶ。真ん中に四斗樽がでんと置かれ、近隣から集まった歌好きたちが自慢のものを競い合うのです。

夏になると田の草取りをした。体力がついてきたころなので、腰を曲げて手で稲の根元の草取りをしたが、この仕事は男たちにとっては苦手な仕事だった。そのうち、稲の間を車の両脇に歯の付いた「はったんこわがし」が使われるようになった。しかし暑い日の田の仕事は汗がいっぱい出た。何か冷たいものが欲しい…。そんなとき一休みをしていると、赤岩足利県道に金を鳴らしながら、アイスクリームを売りに来た。当時は何ものにも代えがたい、この時期のうまい飲み物であった。



時代とともに、祭り自体が消滅している地域がある中、形を変えて続く狸塚の祭り。昔も今も地域の人たちのにぎわいは変わりません

狸塚 観音様の祭り

昭和14年頃、お盆様を送り、8月19日は狸塚馬頭観世音の祭りがにぎやかでした(現在は、8月15日に狸塚納涼祭を開催)。馬の観音様ということで、午前中は観音様の裏の道に農耕馬、運送馬が集まり、ミニ競馬を奉納し、馬の無病息災を祈りました。夜は大櫓の上で八木節大会を行い、青年団が中心になり大会行事が進められました。

大祭費は村中の家からの寄付を募り、櫓は二日もかけて建て、花や提灯、色紙などで飾り付け、商店や会社から寄付された吹流しの旗を何十本も飾り付けました。色とりどりの旗が風になびく姿は、

田の草取り(たなくさとり)

ぜひ、末代まで狸塚馬頭観世音の祭りが続くことを願っています。

歌の合間に鉦のおじさんが、おどけた格好で鉦をたたきながら「おっかー、おっかー、盆が来た…」と舞台いっぱい踊り出し、観客を楽しませ、意気の合った掛け声が観客を飽きさせることなく、長時間応援ができて盛りあげられました。決勝は、夜の12時過ぎ、優勝旗授与が終わると午前様。燃えた夏祭りも終わりを告げます。昭和14年頃から、若い男性は軍隊に召集され、祭りのできない夏もあり、寂しいときもありました。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会

(平成20年6月28日発行「邑楽町のくらしの四季(第九集)あすへひとこと」)より



最後に飾る
(中央公園)



Photo 故 原田隆雄(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶昨年のおうらお知らせメールのうちわに続いて、今年のおうら祭りでは町の公式ツイッターアカウント啓発用のウェットティッシュをお配りしました。広報おうら5月号の裏表紙でお伝えしたツイッターです。今回のお祭りでは駐車場情報やイベントの開催状況などをお知らせしましたが、ご覧いただけましたか?きっと、お役に立たたと思っています。▶SNSは情報の速達性に優れているので、災害時などの情報収集にとても便利です。近年の異常気象による豪雨や地震など、災害はいつ訪れるかわかりません。町ではさまざまな手段を使って情報を発信します。なので、受け取る側の準備もお願いします。皆さんのアンテナに届くような情報発信を心掛けます。(小室)